

令和5年10月16日

酒田市議会議長 高橋 千代夫 殿

議会改革推進特別委員会
委員長 佐藤 猛

議会改革推進特別委員会報告書

本委員会は、付託された議会改革及び議会活性化について調査研究をしてきたが、その結果を下記のとおり会議規則第110条の規定により報告する。

記

1 委員会開催状況及び活動状況

回数	開催年月日	概 要
1	令 3.11.24	正副委員長の互選を行い、委員長に佐藤猛委員、副委員長に田中廣委員が選出された。
2	令 3.12. 2	今後の進め方について、改選前の議会改革推進特別委員会の申し送り事項から優先して検討していくことを確認した。 ・決算審査に関する事項 ・一般質問の日程に関する事項 ・議会報告会に関する事項 また、議会改革に関する全議員研修会を開催することを確認した。
3	令 3.12.14	検討のスケジュールについて確認した。また、決算審査の考え方について意見交換をして、分科会方式の総括・検証を行うことを確認した。
4	令 4. 1.11	決算審査における分科会方式の総括・検証を行い、委員間討議を行った。
—	令 4. 1.21	議会改革全議員研修会を開催した。 テーマ：「対話」による議会からの「政策サイクル」 講師：早稲田大学マニフェスト研究所 招聘研究員 佐藤淳 氏
5	令 4. 1.27	決算審査のあり方について、各会派等の意見を徴し、委員間討議を行った。 議会改革全議員研修会の概要を報告し、意見交換を行った。
6	令 4. 2.15	決算審査のあり方について、各会派等の意見を徴し、委員間討議を行った。 今後検討していく項目について提示した。

7	令 4. 2. 24	決算審査のあり方について、各会派等の意見を徴し、委員間討議を行った。 中間報告（案）について提示した。
8	令 4. 3. 3	決算審査のあり方について、各会派等の意見を徴し、委員間討議を行った。
9	令 4. 3. 11	決算審査のあり方について、各会派等の意見を徴し、委員間討議を行った。 中間報告（案）の内容について確認した。
10	令 4. 4. 20	議会改革推進アドバイザー（仮称）の設置について協議した。 今後のスケジュールについて確認した。 政策提言サイクルの進め方について意見交換を行った。
—	令 4. 5. 13	議会改革全議員研修会を開催した。 （佐藤淳氏を議会改革推進アドバイザーに委嘱） テーマ：「対話」による酒田市議会版「政策サイクル」 講師：議会改革推進アドバイザー 佐藤淳氏
11	令 4. 5. 30	議会改革全議員研修会の振り返りを行った。 政策提言サイクルの進め方について、委員間討議を行った。
—	令 4. 6. 10	議会改革全議員研修会を開催した。 （タブレットを活用したオンライン研修） テーマ：地方議会の「不易流行」 ～ICTを活用した議会の新しい姿～ 講師：議会改革推進アドバイザー 佐藤淳氏
12	令 4. 7. 20	通年議会について、委員間討議を行った。
13	令 4. 11. 29	決算審査のあり方についての総括を行い、議員及び執行部にアンケート調査を行うことを確認した。 一般質問の日程のあり方について、委員間討議を行った。
14	令 4. 12. 22	アンケート調査の結果を踏まえ、決算審査のあり方についての総括を行った。
15	令 5. 1. 12	決算審査のあり方についての総括を踏まえ、予算審査のあり方について、各会派等の意見を徴し、委員間討議を行った。
16	令 5. 1. 20	予算審査のあり方について、各会派等の意見を徴し、委員間討議を行った。
—	令 5. 1. 23	議会改革全議員研修会を開催した。 テーマ：「政策サイクル」を軌道に乗せよう！！ 「政策サイクル」のバージョンアップ 「通年議会」について 講師：議会改革推進アドバイザー 佐藤淳氏
17	令 5. 1. 23	議会改革全議員研修会の振り返りを行った。
18	令 5. 5. 11	予算審査のあり方についての総括・検証を行い、委員間討議を行った。

—	令 5. 5. 18	議会改革全議員研修会を開催した。 テーマ：「政策サイクル」を仕上げよう！！ 講師：議会改革推進アドバイザー 佐藤淳氏
—	令 5. 7. 11 令 5. 7. 12	通年議会について行政視察を行った。 ①岩手県一関市議会 ②宮城県大和町議会
19	令 5. 9. 4	予算審査のあり方についての総括・検証を行った。通年議会について、委員間討議を行った。
20	令 5. 9. 22	通年議会について、委員間討議を行った。
21	令 5. 10. 10	本委員会の調査報告について協議し、取りまとめを行った。

2 調査結果

本委員会は、酒田市議会議会基本条例に基づき、更なる議会改革と議会活性化について調査研究及び提言をすることを目的として、令和3年11月24日に設置され、「決算審査に関する事項」、「一般質問の日程に関する事項」、「議会報告会に関する事項」について調査、検討を行ってきた。

翌年の令和4年3月18日には、それまでの協議により結論を得た事項と今後の方向性について中間報告を行った。結論を得た事項については、令和4年9月定例会の決算審査から「全体会方式」で実施していくことを本委員会として決定し、その手法は予算審査でも取り入れていくこととした。

今後の議論の方向性については、以下の3点について報告を行った。

議会報告会については、議会で決定した事項の報告を行う手法の議会報告会はやめ、新たに常任委員会単位で、市民や関係団体から対話により意見を聞く場を設けることとした。

常任委員会の体制強化と政策提言については、各常任委員会で市民や関係団体から「対話」により意見を聞きながらテーマを打ち出し、議員間討議により政策提言を実施する体制を構築する方向で議論していくこととした。

通年議会については、実施する方向で議論していくこととし、一般質問の日程に関する事項については、通年議会の検討の中で方向性を検討していくこととした。

中間報告後は、常任委員会の体制強化としての政策提言サイクルの構築、決算審査に連動した予算審査のあり方、通年議会の実施について検討を行ってきた。

この間、議会改革を推進するに当たり、早稲田大学マニフェスト研究所 招聘研究員 佐藤淳氏を議会改革推進アドバイザーとして委嘱し、政策提言サイクルの構築や通年議会の導入に関して、専門的な立場から助言をいただいたところである。中でも議会改革全議員研修会では、市民や市民団体との「対話」の重要性を理解し、その手法を学び、実践につながられたことは、政策提言サイクルの構築に大きな成果をもたらしたものと確信している。また、タブレットを使用したオンラインによる研修会を開催し、今後の議会内での活用のイメージを広げることができたのも成果の一つと考えている。

議会改革全議員研修会で学んだことを活かし、各常任委員会でテーマを決め、活動計画を立てて、市民や関係団体と対話を通じて意見を拾い上げ、議員間討議を行った結果、今定例会において政策提言に関する決議を提案するところまでできたことは最大の成果であり、この政策提言が本市の発展に寄与することを大いに期待するものである。

今後も政策提言サイクルを継続し、市民の皆様からの声を形にしていけるように、引き続き、常任委員会の活動を活発に取り組んでいかなければならないものとする。

決算審査に連動した予算審査のあり方については、全体会方式での審査を継続し、常任委員会の所管単位での審査や審査の区分を整理して実施することを本委員会として決定し、運用を開始したところである。

通年議会については、他市議会の状況を調査するとともに先進地視察を行いながら、検討を重ねてきた。通年議会を導入することで、執行部が閉会中に重要議案を専決処分することがなくなり、議会で十分な審議を行うことが可能となり、災害等の突発的な案件への迅速な対応ができること、常任委員会の活動の活性化により議員間討議をより深めることができることなど通年議会のメリットを再認識した。

その結果、通年議会については、従来 of 地方自治法第102条の規定を運用し、会期を年1回とする方式を採用することとし、令和6年4月から試験的に導入し、令和7年1月から本格導入することで本委員会としての結論を得た。また、一般質問の日程に関しては、引き続き、通年議会の検討の中で整理していくこととした。

酒田市議会議会基本条例の原点に立ち返り、我々議員がその責任を果たすとともに、市民に信頼され、期待される議会となるよう積極的に議会改革を進めていく必要がある。加えて、通年議会を実施するためには、具体的な運用、関係例規の整理及び市民への周知など、引き続き検討すべき事項があることから、本年11月以降においても議会活性化に向けた協議の場を設置し、継続的に調査検討していくことを望むものである。